



特277  
962

特277-962  
\*76W10903

務局報(第十号)

純協活動狀報

純正日本主義青年運動全國協議會  
事務局發行



始







# 純協精神の再認識

▼特に注意すべき諸矣

青年運動の本質を明瞭に再確認すべき事

社会の急変動につれて世間が全く混乱し透徹せぬ見識もなくなり徒に古往を往し  
て既成政策の捨て去りし小規模運動の御手荒れのような維新運動の本質から遠脱し  
て暴行を行ふが存いでもない。この際若者は痛烈に深刻に自己批判と反省を至す  
の必要があると思ふ。試みに我協試食の校立宣言の一詞を取上げて見る。それに  
て存野の運動を綜合すべき中心運動、核心体として、これに統一的存在をイデオロ  
ギイを以て、その方向を決定し躍進力を添加するものこそ、我等は真によく日本  
在野運動の中核たるに堪へざるべく、至しく純なる運動と行動とを以て觀念の大  
同より血脈的融合への大飛躍を試みよ。

凡そ二平等の自覚を基調として出発したものが我協であつた筈である。単なる  
講演会をやるだけで能事終れりとするならば、何と苦しんで純協の組織などか  
要らうか。遂に己の自覚を基調として行動するならば、講演会でも充分に有効に  
作用せしめ得る筈である。我れ人にも深く反省したい。





人 使命の自覚を深刻ならしむる事

維新の翼賛は頼まれ仕事ではない。國体の要求に基く臣道の奉公である。況んや自ら備して申候といひ候心といふ者に於ては。維新の奉公者は身は死す百尺の底に置くべく、志は九天の上にとりて存するに在らぬ。純協はそれ自覚が大衆団体にはなく、自覚者のグループである。各自一個一個が絶対權威をもつた自覚的便師遂行者でなければならぬ。便師の遂行は生命を懸以上のものである。或は以後の行急である。みことの手にくく、熱上進である。そこに純協の任務がある。青年運動の本質がある。我々が最も良く我々の任務を忠実に遂行するとともに、各分野の運動の蜂命が出来る。それが實・量俱足の本體組織である。

便師の自覚なきと云ふに愚痴も出れば不平も起る。純協が便師集団であるべく、吾國が便師遂行者たるの自覚を——従つて維新翼賛は誰の爲のものでない。自分の便師なのだ。との自覚をこの際深く且つ切にせしむる必要がある。若しそれ便師の自覚なく、維新を頼まれ仕事か請負事業の如く考ふる者ありとすれば、彼は純協を求むべく、去らしむるべきである。

### ★九州地方準備會

### 維新翼賛

### 講演會 連続開催!

— 國民思想總動員に萬全を期す —

既報の如く我党正日本主義青年總動員全國協会は、支那事變の根本解決は國內維新に依つて成すべしなるを以て、三月下旬より計略第一大会論戰を自覚的協力を以て、三月下旬より計略第一大会論戰を發行しつゝあるが、九州地方協会の準備會では、各県下郡盟諸団体共同に、九州各地に四月十六日より四月廿日の十日間に亘り講演會及び座談會を開催、國民思想の覺醒同時期に維新の機を促すべく、と云ふことがあった。

前二州が九州地方の國民大衆に及ぼす影響は甚大なるものがあり、急遽に組織の擴張を急ぐに及んだ。新方針に對し、より果敢なる実行に導くべく、諸般の準備を圖へつゝある。

### 維新翼賛 大講演會

講師 眞崎 勝次 計下  
野田 龍藏 氏

|    |         |      |
|----|---------|------|
| 日時 | 四月二十六日  | 午後七時 |
| 場所 | 芦屋市     | 公会堂  |
| 日時 | 四月二十七日  | 午後一時 |
| 場所 | 行橋町     | 公会堂  |
| 日時 | 四月二十七日  | 午後七時 |
| 場所 | 後藤寺町小学校 | 講堂   |
| 日時 | 四月二十八日  | 午後七時 |
| 場所 | 宮崎市     | 公会堂  |
| 日時 | 四月二十九日  | 午後七時 |
| 場所 | 藤古市     | 公会堂  |



|    |       |      |
|----|-------|------|
| 日時 | 四月三十日 | 午後七時 |
| 場所 | 熊本市   | 公会堂  |
| 日時 | 五月一日  | 午後一時 |
| 場所 | 大牟田市  | 中座   |
| 日時 | 五月二日  | 午後七時 |
| 場所 | 武雄町   | 公会堂  |
| 日時 | 五月三日  | 午後七時 |
| 場所 | 佐賀市   | 公会堂  |
| 日時 | 五月四日  | 午後七時 |
| 場所 | 中間町   | 公会堂  |
| 日時 | 五月五日  | 午後七時 |
| 場所 | 門司市   | 公会堂  |

維新翼賛座談會

講師 奥崎晴次 以下  
野日爾藏 氏

|    |        |        |
|----|--------|--------|
| 日時 | 四月二十六日 | 午後二時   |
| 場所 | 戸畑市    | 公会堂    |
| 日時 | 四月二十八日 | 午後十時   |
| 場所 | 彦根市    | 広瀬旅館   |
| 日時 | 四月三十日  | 午後二時   |
| 場所 | 飯沼市    | 明治座    |
| 日時 | 四月三十一日 | 午後一時   |
| 場所 | 熊本市    | 研屋支店   |
| 日時 | 五月一日   | 午後七時   |
| 場所 | 大牟田市   | 公会堂別館  |
| 日時 | 五月五日   | 午前九時   |
| 場所 | 中間町    | 照日旅館   |
| 日時 | 五月五日   | 午前七時   |
| 場所 | 門司市    | 本村青年会館 |

以上

▽全県下に亘り一大言論戦を展開した九州地方協  
誠会連合会では加盟各団体の緊密な連絡及び統  
一組織の爲、組織的發展が当面の主要課題  
とされ、これに基つたので五月五日門司市に於て加盟  
各団体代表出席の上、九州地方協誠会結成に關す  
る件、外多許を審議し、滿意なる意見の交換を遂げ  
ると云ふことがあつた。

幹部會開催

|     |   |      |
|-----|---|------|
| 日時  | 五月廿日  | 午前一時 |
| 場所  | 折尾町   | 公会堂  |
| 出席者 | 小島、百園、寺本、久保、木本、藤野、<br>全秋、村上、<br>行橋、高野、<br>田川、田中、北田、<br>藤本、河野、<br>大塚、西田、<br>遠藤、長崎、大田、栗田、<br>中根、合田、榎原、<br>以上の諸氏出席の上 |      |

協議事項

- 一 組織に關する件  
日本主義を標榜する各種団体及び個人を以  
て組織の拡大發展を計る事。
- 一 九州地方協誠会結成に關する件  
史期を會まで保留、會合日六月十日
- 一 運動方針に關する件  
日本青年連盟を中心とする具體的運動方法  
及び管理方法を討する事。  
九州協誠会連合会が明確な方針に就て、  
之の方針を管理を授けし事。  
九州協誠会連合会に對する首領並に意見  
等々を討する事。
- 一 連絡員代表員推薦に關する件  
各地方協誠会の申出に依り之を推薦し、全  
國協誠会に報告する事。  
代表員に適當なる人の動推薦を願ふ



















その都くである。

健康活動の発展第三号

豊田入りの新報新聞と其の編輯問題

柳原の論議、其の影響

最近に於ける教育界の動向に付する意見書

★ 進歩青年協賛会

日清戦争後運動の進歩青年協賛会は、ある  
程度に活動した。其の活動は、  
以下に、諸君の注意を喚起する。国民精神煥發會  
の活動は、其の活動である。詳細は、  
本協賛会に問い合わせる。

進歩青年協賛会

九月一日 発行 第一号 同人 謹

九月二日 発行 第二号 同人 謹

九月七日 発行 第三号 同人 謹

九月十日 発行 第四号 同人 謹

九月十五日 発行 第五号 同人 謹

昭和十三年六月七日印刷  
昭和十三年六月十日発行  
編輯印刷兼発行人  
中川 裕  
発行所 京都市左京区下鴨橋町八丸  
純正日本主義青年運動全国協賛会事務局

終